

# (敷島小) 学校 学校関係者評価書 (前期)

平成22年8月3日 (火)

(敷島小学校) 学校関係者評価委員会作成

## 第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成22年7月22日 (木) 午後3時30～5時10分

会場：敷島小学校図書室

参加者：(学校関係者評価委員)

学校評議員：小田切道之、堀内克一、清水美代子、小林 淳 松土 文恵

P T A代表：羽田野実 (P T A会長)、山本君男 (P T A副会長)

### (学校側)

校長 山中長壽

教頭 森本 清

教務主任 田中清登

## I 学校側から提案された内容

学校側から、6月に学校において実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を基礎資料として分析し、まとめた「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

(1) 学校教育目標及び学校経営方針について

(2) 自己評価について

① 全体評価

② 項目ごとの評価結果について (達成状況・改善策)

(ア) 学校教育目標に関して・学校経営について

(イ) 学校運営について

(ウ) 学習指導について

(エ) 生徒指導について

(オ) 地域との連携について

(カ) 学校の特色に関して

(3) まとめ

## II 協議された主な内容

### 1 教職員自己評価及び児童アンケートの結果について

- ・児童アンケートによれば、全校児童のおよそ85%が、授業が「とても楽しい」「楽しい」と回答しており、その要因の一つとして、先生が内容をわかりやすくおしえてくれるからだと推察することができる。
- ・教職員自己評価で、「基礎・基本の定着を図る授業を行っている」という設問に対し、職員のおよそ70%が「そう思う」と回答している。確かな学力を定着させるためにも、基礎・基本、思考力、表現力を育成する学習指導を進めていく必要がある。
- ・校内研究でも思考力、表現力を育成するために言語活動を取り上げ、取り組んでいるが、特に的確に理解する力、相手に伝える力を培うための指導方法の工夫改善を目指した研究をしていくことが大事である。

- ・「危機管理マニュアルを理解している」の設問に対し、「そう思う」と回答した職員が、およそ53%であった。共通理解を深める機会を適宜設け、事件、事故を未然に防ぐための防犯教室や避難訓練を適切に実施することは特に重要なことである。

## 2 学習指導について

- ・児童アンケートで、「授業中に質問や意見を言ってますか」の設問に対し、34%の児童があまり言っていないと回答している。自信がなくて言えないのか、わかっているから言わないのか、細かな分析が必要ではないか。聞く時間の確保、雰囲気づくりの醸成も大事ではないか。
- ・評価基準と評価方法を明確にした授業や教材・教具や備品の活用については、指導と評価の一体化という観点から、つまずきの発見や学力の定着のためにも、自己評価書の改善策にあるように職員同士での実践紹介や効果についての研究を実施してもらいたい。
- ・学習内容の定着には、授業の終末段階で5分間テストやわかったことを文章で書かせるといった方法もある。また、家庭と連携して、家庭で復習するシステムの構築も考えていきたい
- ・児童アンケートによると、家庭での学習時間が短いといった結果（学習時間が30分以下が、全児童およそ33%）が出ている。家庭学習の意義をあらゆる方法で学校側から発信しているが、今後も繰り返し発信し、理解を得ていく必要がある。学習塾へ通ったり、通信教育による自宅学習を行っている児童も少なからずいると聞いているが、保護者の目の届く範囲で家庭学習を行い、習慣化する必要がある。
- ・読書をする時間が、一日あたり30分以下といった児童が、約半数いるという結果がでた。家庭学習と同様、学校と家庭が連携し、定着を図る必要がある。学校では、10分間読書や読み聞かせの時間の充実、家庭では親子読書の奨励などを進めたらどうか。

## 3 生徒指導について

- ・不登校児童（7月現在1名）への対応として、学校としてはスクールカウンセラーの活用、保健室での養護教諭による相談活動、担任による家庭に出向いての学習支援や相談活動を行っているようだが、再登校ができるように関係機関（教育機関、医療機関等）や家庭との連携を密にし、保護者が一人悩むといったことがないように、また、いつでも学級で迎えることができる居場所をつくって欲しい。
- ・携帯電話を所持している児童が多い。安全面への配慮から、持たせる保護者の心情はある程度理解ができるが、学校への持ち込みは、これまで通り原則禁止として欲しい。どうしても持たせる必要がある場合には、フィルタリング、通話制限など、保護者の自覚が必要である。できることなら、コミュニケーションは相手との直接会話によるなど顔を見て欲しい。いじめの原因になる場合もあるので家庭では持たせないで欲しい。
- ・ファミリーグループによる「ちびっ子祭」「ファミリータイム」は素晴らしい活動である。少子化による遊び、仲間の減少を考えると、異年齢による集団活動は仲間づくりや思いやりの心、リーダーの育成に効果があると思える。今後も継続

して欲しい。

#### 4 家庭、地域との連携について

- ・学校では、学校・学年・学級便り、ホームページ等を利用して、情報を発信しているが、学校が抱える課題、例えば学習指導上や生徒指導上の課題など、学校だけで抱え込まず、積極的に情報提供し、学校、家庭、地域が連携し解決していくことが大切である。
- ・学校外の人材活用を積極的に進めてはどうか。甲斐市では「学校応援団」といった文科省による委託事業を活用しているところもある。
- ・今年は、校舎増築に関わって狭い運動場での運動会実施となる。家庭や保護者に

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

- ・教職員の自己評価や児童アンケートの回答から見ると、本校の前期の教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）については、「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合がほとんどである。これは、教職員が学校経営方針を理解し、日常の教育実践や校務分掌を分担遂行する中で学校教育目標の具現化に努めていると言える。
- ・全校児童の多くが、学校が「とても楽しい」、「楽しい」と回答し、昨年度後期より、さらに学校生活を肯定的にとらえている。
- ・授業については、多くの児童が「とても楽しい」「楽しい」と回答している。また、教師も基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のために、個に応じた指導を行っている。

### II 特徴

- ・「あいさつの声がひびきあう学校」を取り上げ、児童会活動と一体となって取り組んでいる。教職員が率先してあいさつしていること、児童も児童会活動の一つとして、「あいさつレンジャー」なるものを組織し、あいさつ運動を展開したことにより、昨年以上にあいさつの輪が広がっている。また、「きれいな学校」に対する取り組みでは、師弟同行による日常の清掃活動、児童会活動による「敷小キレイキレイ作戦」「校舎すみずみピカピカ作戦」などで、草取り、石拾い、下駄箱、傘立ての清掃など、具体的な活動や場所をきめて取り組んでいる。働くことの意味を理解したり、仲間づくりの機会となっていることはもちろん、キャリア教育推進の一助となっている。
- ・特に、ファミリーグループを活用しての「ちびっ子祭」「ファミリータイム（縦割り班活動）」は高学年児童のリーダーとしての資質の育成、思いやりの心やリーダーに対する感謝の気持ちをはぐくむなど、豊かな心の育成にもつながっている。

### III 今後の課題として意識されたいこと

- ・教職員の自己評価と児童のアンケート結果から、教育活動に取り組む教職員の意識と児童の学校生活における感じ方にほとんど差がないことがわかった。今後はこの結果を教育活動のさらなる充実につなげていくためにも、PDCAの学校評価システムによる評価、改善、実施を繰り返すことにより、教育活動の充実と学校

組織を活性化させていただきたい。

- ・ 確かな学力の定着のために、先生方も大変頑張っているところだが、今後も指導方法の工夫改善を行う中で、個に応じた指導を充実させていただきたい。
- ・ 家庭学習の習慣化や読書をする時間量に若干の課題がある。懇談会や学校からの情報発信等により、家庭、地域と連携する中、理解と協力を得ていく必要がある。

**※特記事項**      なし

**記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小田切道之 印**